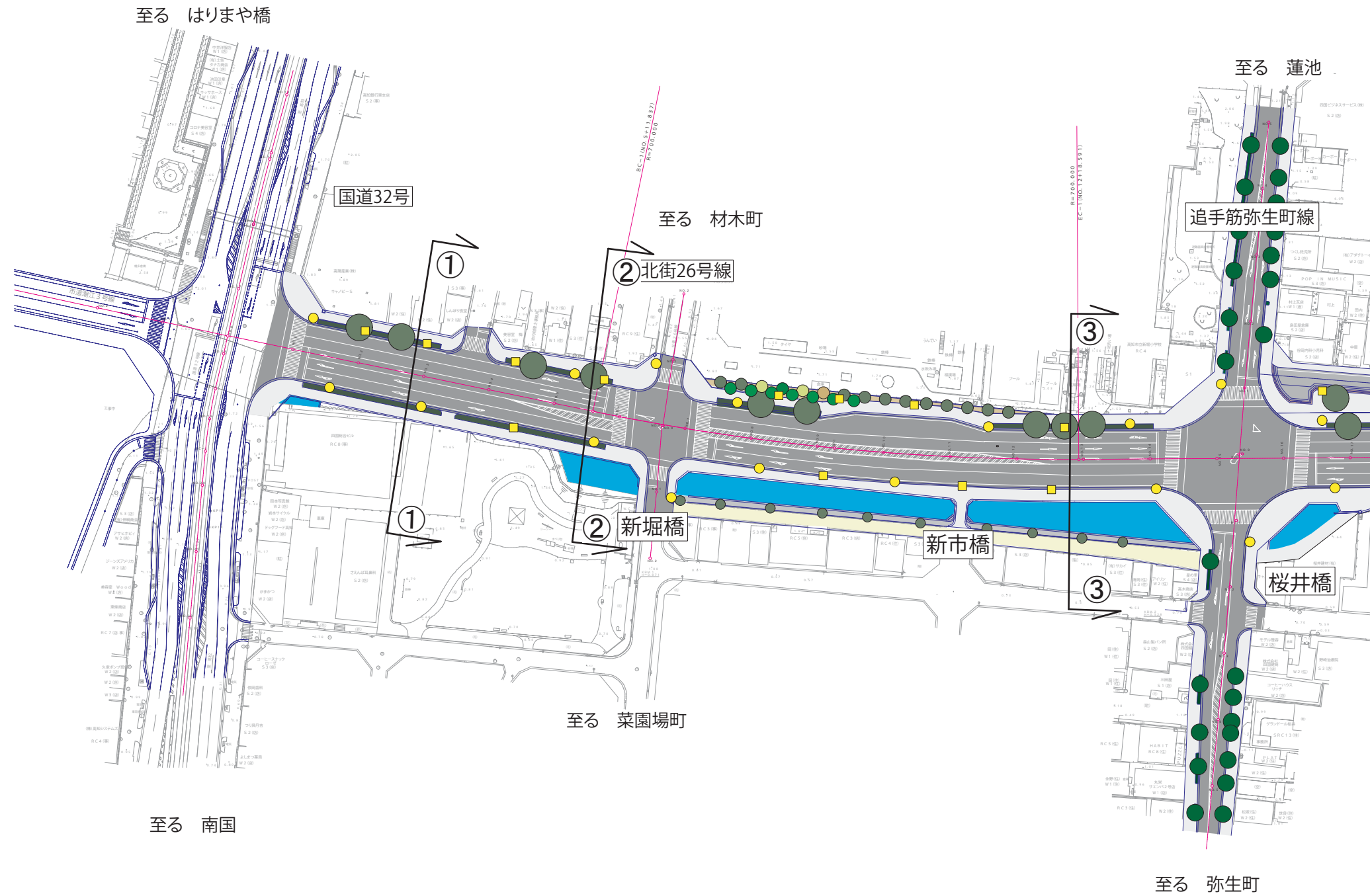
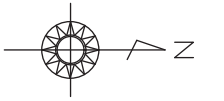


IV 議題

2 工事中断区間の現在の計画

計画平面図

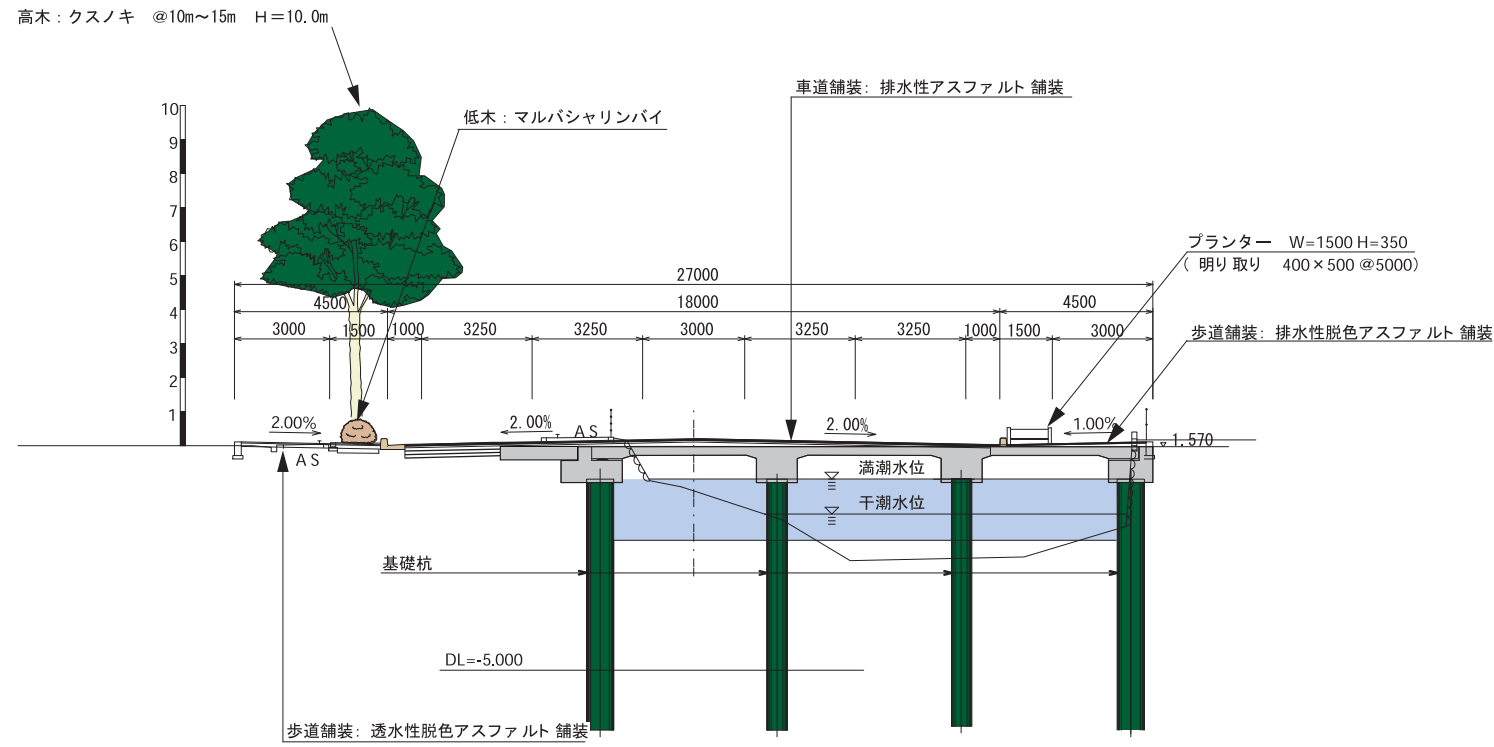


凡例	
	高木
	中木
	低木
	照明灯
	足元灯

横断図

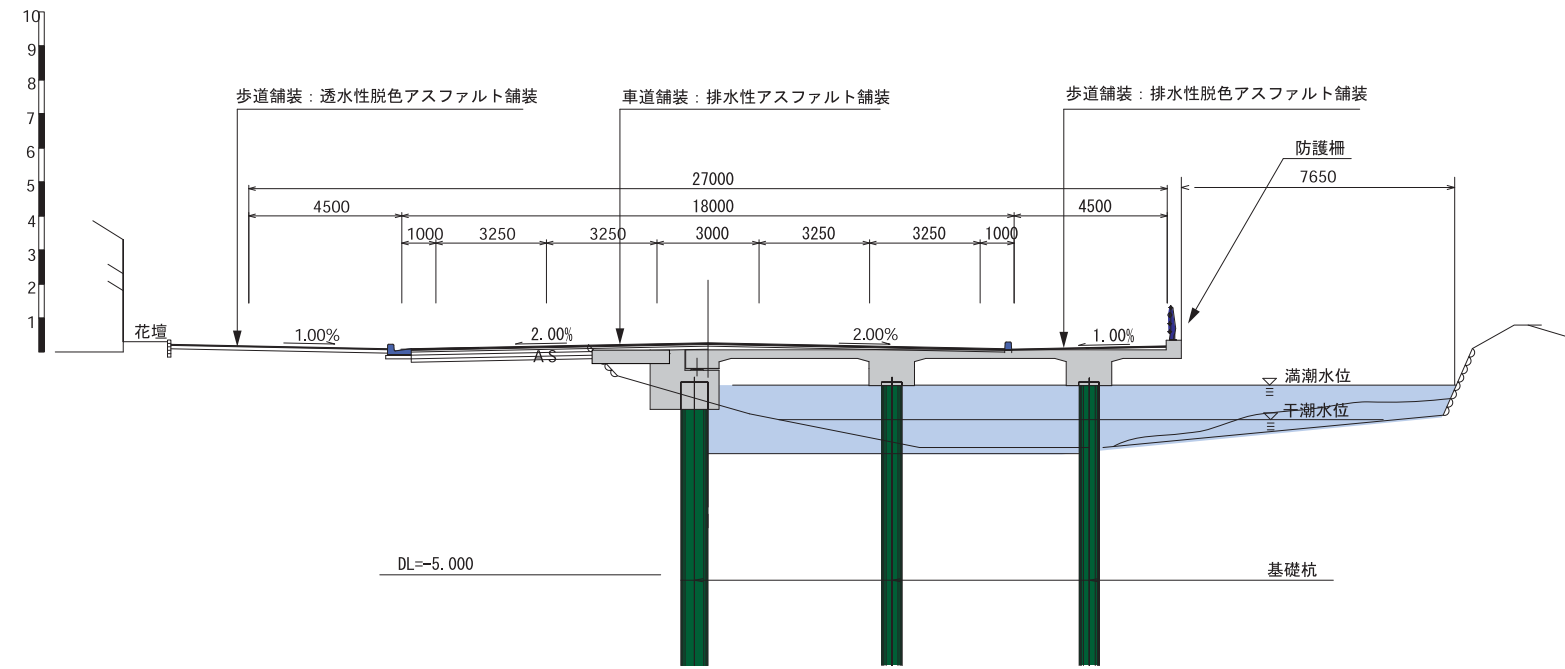
横断図Ⅰ (①-①)

No. 3



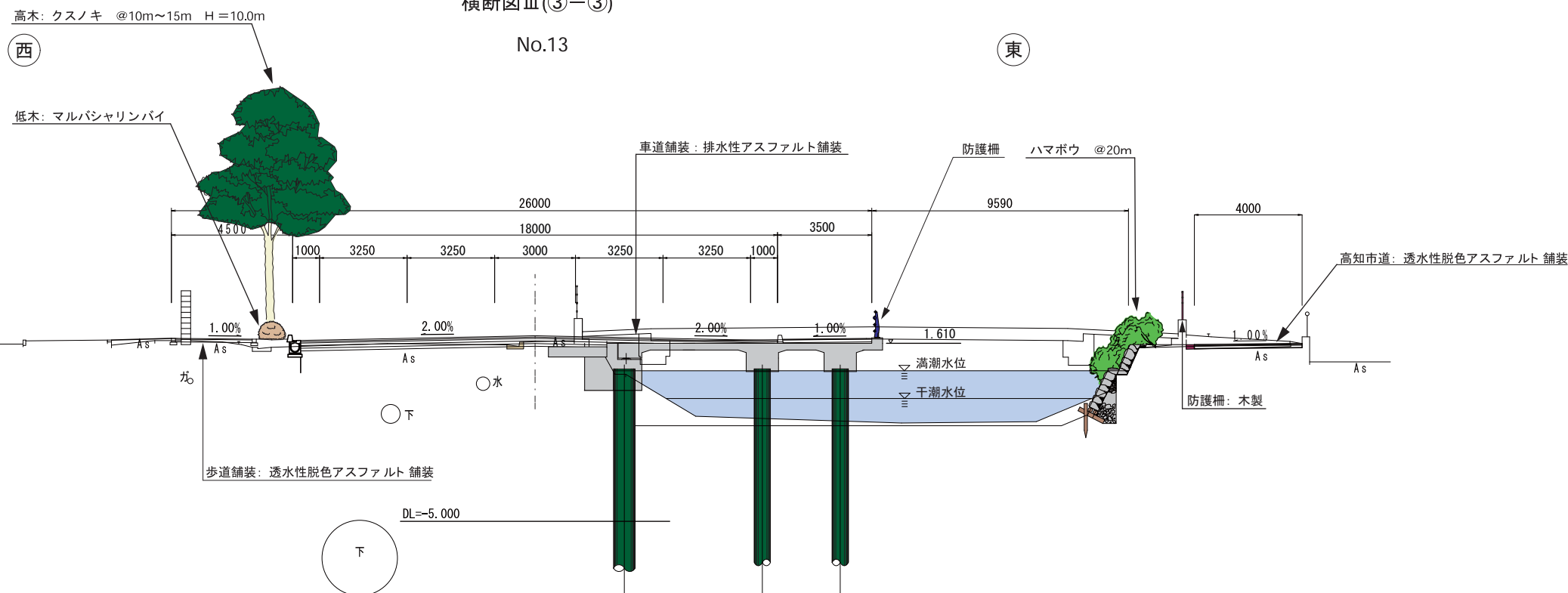
横断図Ⅱ (②-②)

No. 6

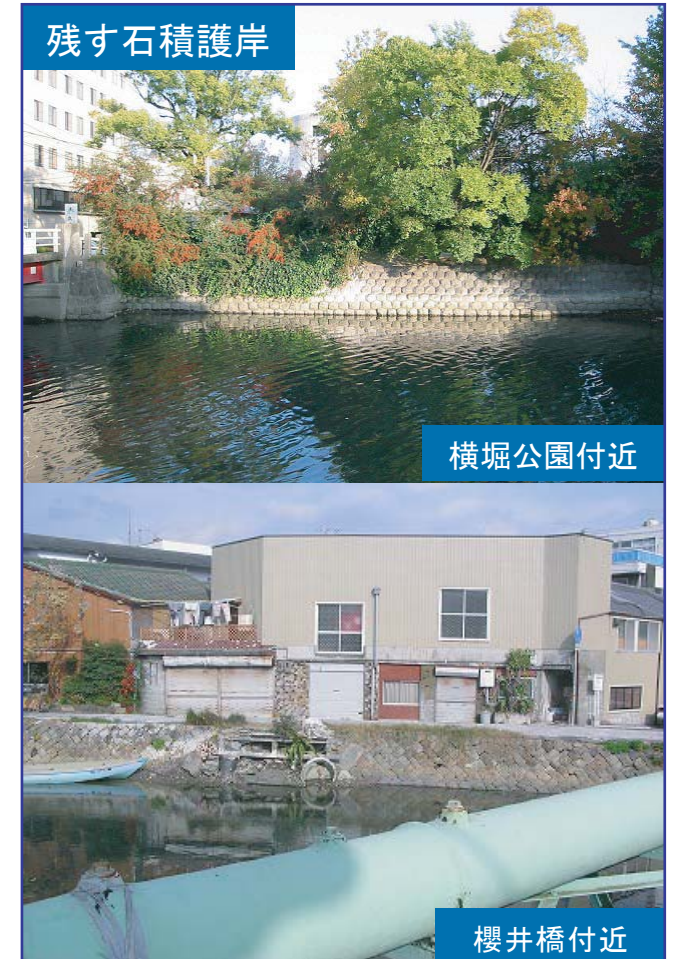
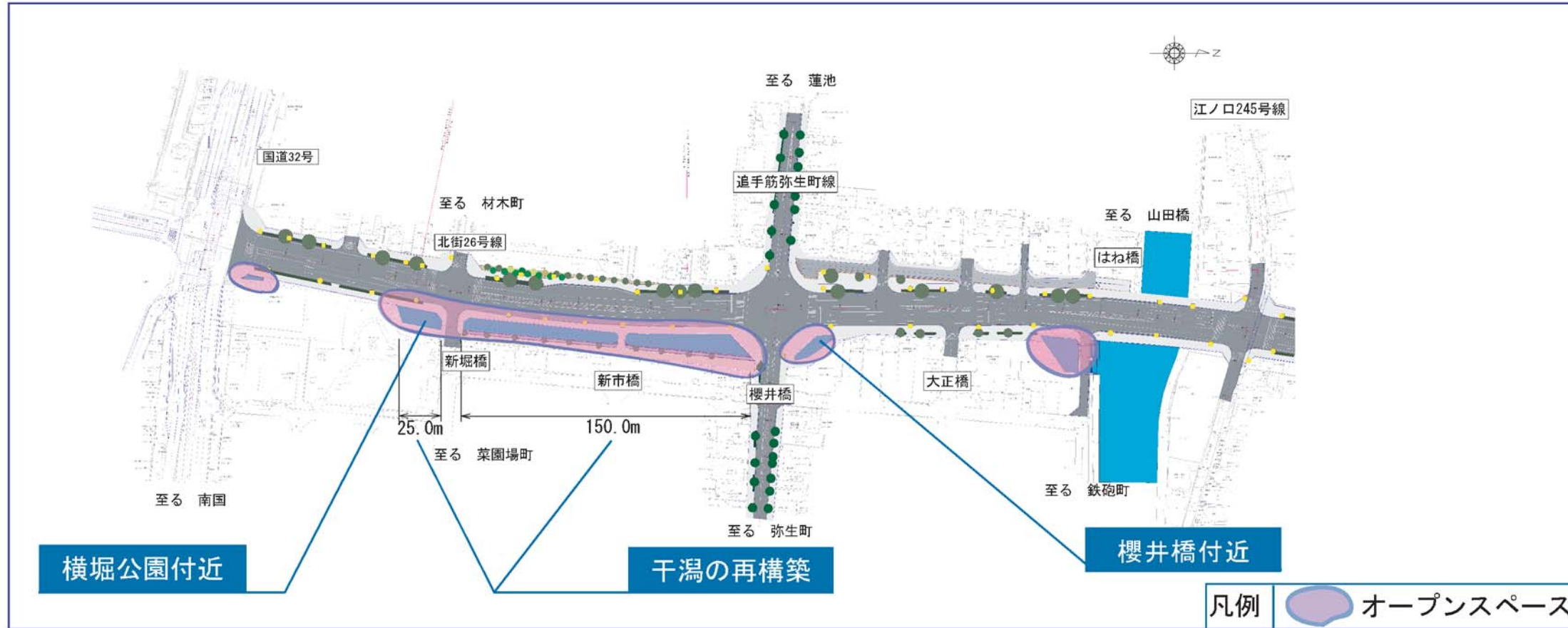


横断図Ⅲ (③-③)

No.13



河川が有する自浄作用を促進するため、既存の石積は工事に支障がないところは残します。
また、新堀駐車場部のオープンスペースは石積護岸で整備します。



*この時に撤去された石積は南側駐車場に仮置きした状態となっている。

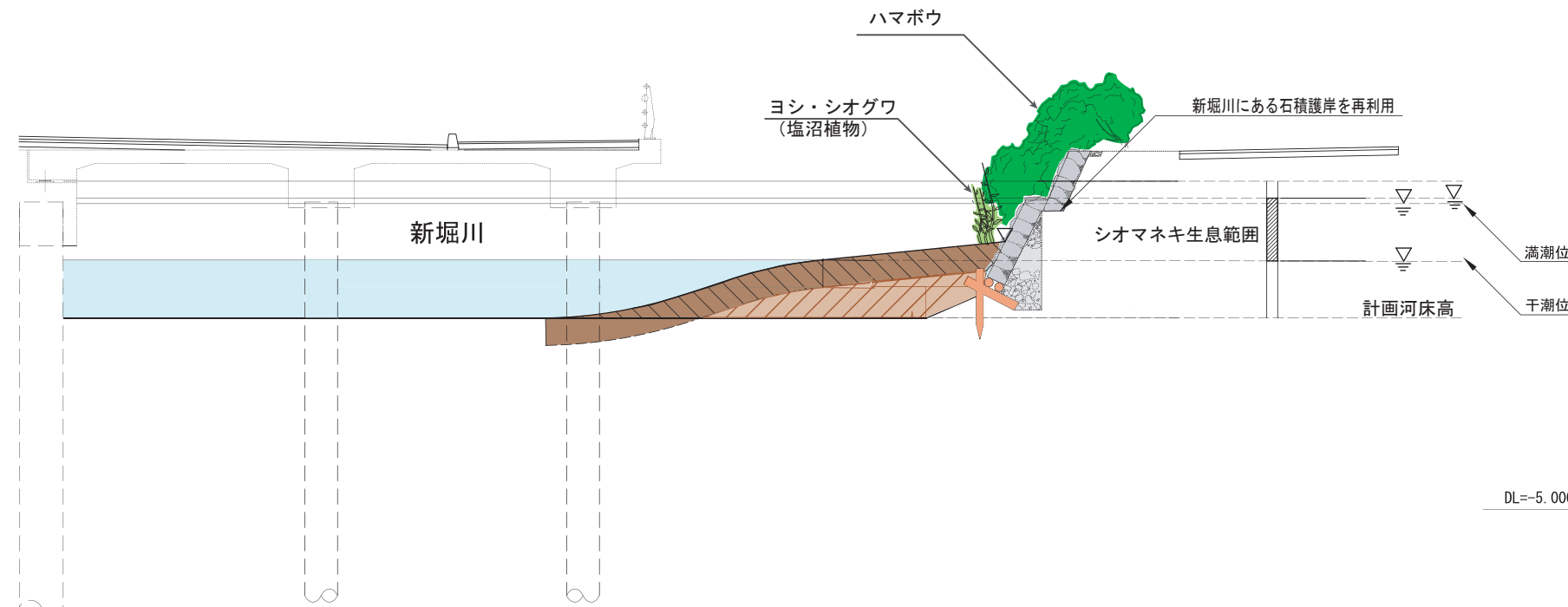
工事完了後に生物が定着し易いよう、オープンスペースには干潟の再構築を図ります。

干潟の再構築

シオマネキの生息には水質、日光、巣穴の深さ、泥質の粒度が重要とされています。これらのことからはりまや工区では、干潟について右図を参考に専門家の指導を受け再構築します。

これより、希少種であるシオマネキなどの生息環境の保全を目指します。

コアマモについてはアカメの幼魚の生育環境として重要と認識しております。今後、専門家の意見を聞きながら検討します。



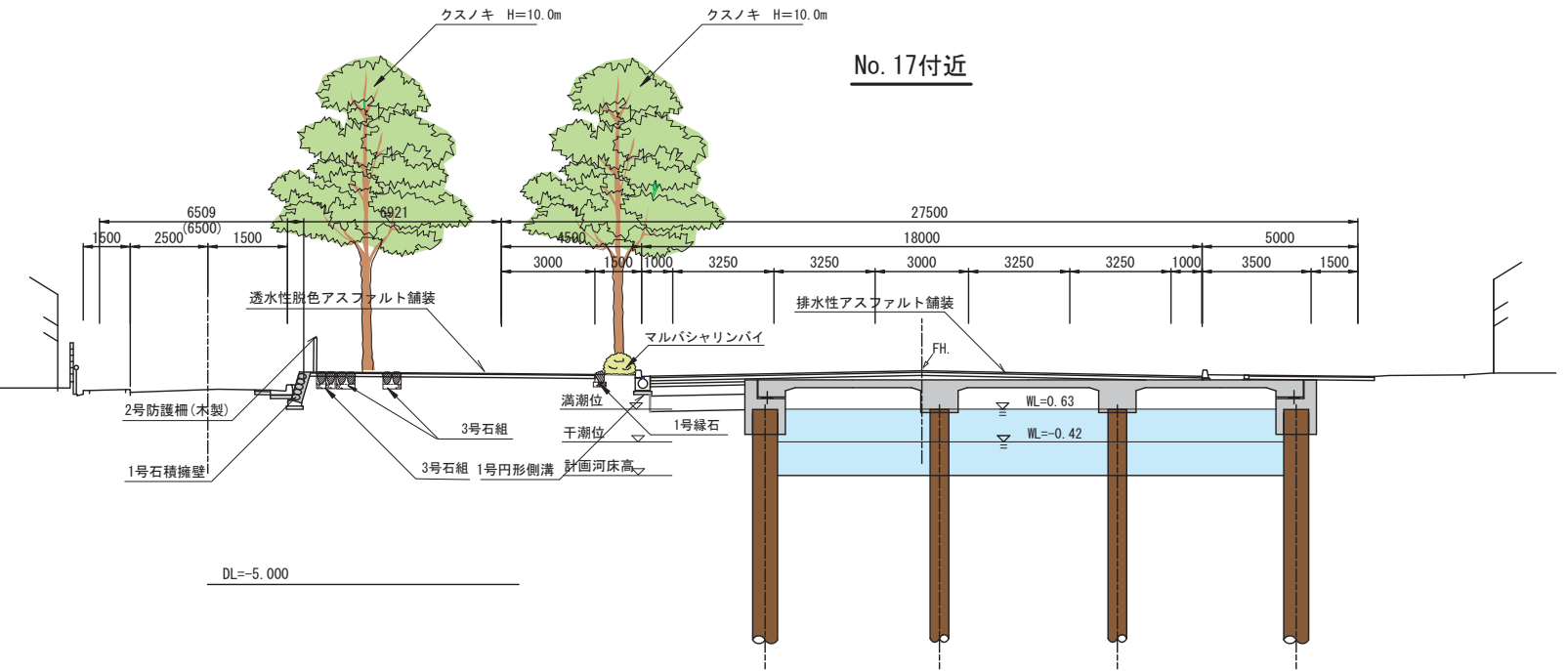
緑地等実施設計は平成13年度に実施された「検討会」，「ワークショップ」で決定された内容に基づき計画を実施しています。

また，当工区では石材(新堀川石積)が437m³(1,100t程度)発生します。この江戸時代初期に造られた「堀」の風景を保存するためこの石材を施設に再利用する計画を実施しています。

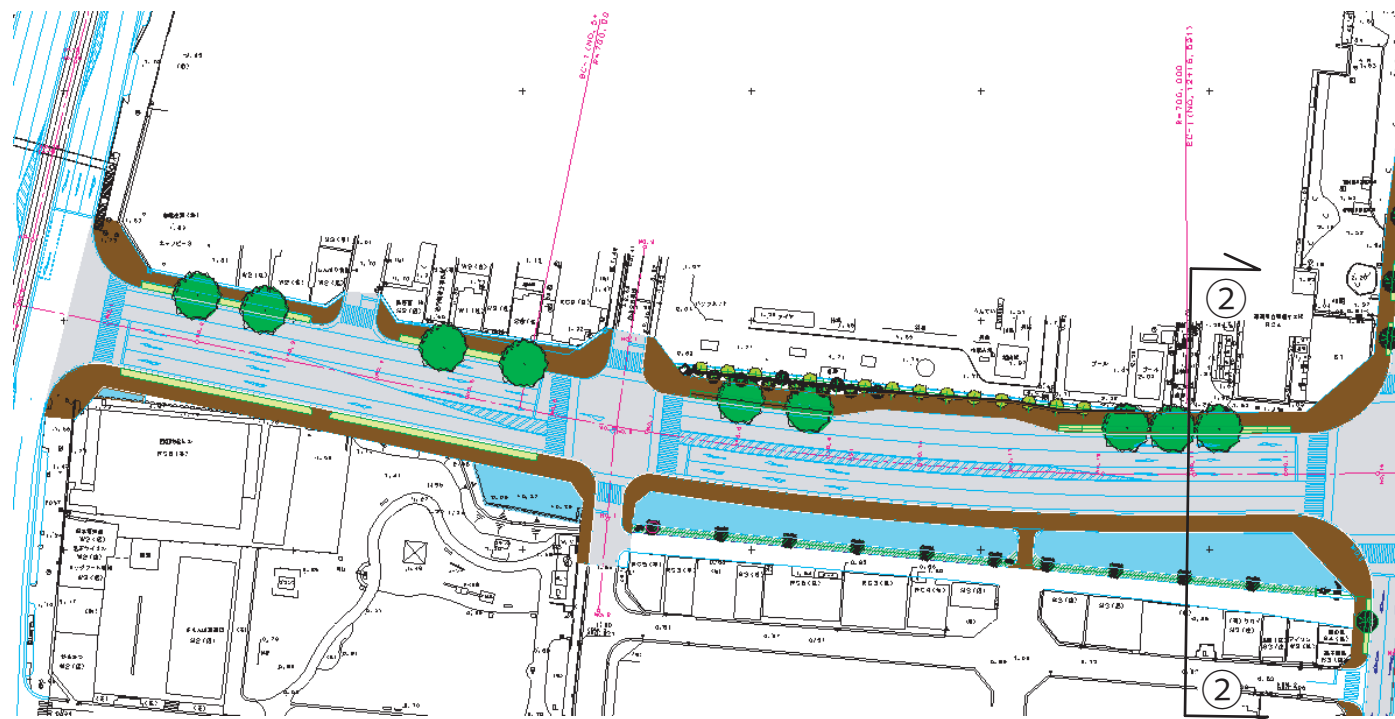
■ 完成区間 ■ 憩いの場の創出



西 横断図Ⅲ(①-①) No.13 東



■ 工事中断区間 ■ 川面及び緑環境の創出、史跡の保全



西 横断図Ⅲ(②-②) No.13 東

